第 3 章　国際金融安定性報告書

フィンテックの急拡大：脆弱性と金融安定性維持の課題

フィンテック（金融業務における技術革新）はコストや摩擦を低減し、効率性と競争を促し、金融サービスへのアクセスを広げる可能性を有する。本章はフィンテック企業の急速な拡大に伴う脆弱性や金融安定性への影響について検討している。規制が不十分な中でフィンテック企業がリスクの高い事業分野での活動を急拡大させる結果、システミックリスクが生じ、金融安定性に悪影響を及ぼす可能性がある。

本章では中核的な銀行業務に参入したフィテック企業について 3 つのケーススタディを行った。第 1 のケーススタディはデジタル銀行（「ネオバンク」とも称される）に関するもので、いくつかの脆弱性が確認された。（1）リテール融資の組成において適切な貸し倒れ引き当てを積まず、信用リスクのプライシングが不十分で過大なリスクを取っていること、（2）証券投資ポートフォリオにおいて過大なリスクを取っていること、（3）流動性リスクの管理が不十分なこと、が認められた。フィンテック企業は自ら高いリスクを負うだけにとどまらず、伝統的な銀行への圧力となる。第 2 のケーススタディでは、米国住宅ローン市場でフィンテック企業が競合する伝統的な銀行の収益性を低下させる圧力を加えていることが示された。

分散型金融（decentralized finance=DeFi）は仮想資産をベースとした金融仲介の一形態である。技術革新を新たな段階に進化させたことからここ 2 年間で急激に拡大しており、効率性の向上と投資機会の拡大をもたらすことが期待されている。第 3 のケーススタディでは DeFi と伝統的な金融仲介機関の関連が強まっていることが明らかになった。DeFi は市場の規模としてはまださほど大きくないが、規制の枠外にあり、法的な不透明性も相俟って市場リスク、流動性リスク、サイバーリスクの源泉となっている。

本章は、フィンテック企業と既存金融機関双方を対象とした各々の部門の規模に相応する政策が必要であることを示している。ネオバンクに対しては抱えているリスクに応じた資本、流動性およびオペレーショナルリスクに関するより強い規制が望ましい。伝統的金融機関に関しては、技術的に劣後した金融機関が既存のビジネスモデルを長期的に維持することが難しいと思われるため、これらの金融機関のプルーデンス監督は健全性に重点を置くことが必要となるとみられる。

DeFi を統御する中心的な主体がないことが、効果的な規制監督の障害となっている。ステーブルコインの発行体や仮想資産の交換所など、仮想資産のエコシステムで DeFi を支える主体を重点的に規制すべきである。また、業界の行動規範や自主規制機関による監視などを通じ、DeFi のプラットフォームのガバナンスの仕組みを向上させることを当局は慫慂すべきである。 自主規制機関は規制監督制度構築に向けた効果的な道筋となりうる。

レポート全文（英語版）は下記のリンクから参照ください。
https://www.imf.org/en/Publications/GFSR/Issues/2022/04/19/global-financial-stability-report-april-2022